



とびだす!

KON-KON! おじゃまします

19

発行：特定非営利活動法人まちづくりスポット大津
住所：滋賀県大津市二本松1番1号ランチ大津京内
<https://machispo-otsu.net>

文部科学省の調査によると、2024年度の不登校児童生徒数は合計35万人を超え、過去最多となりました。また、滋賀県内の不登校児童生徒数も5,375人となり、年々増加しています(※)。

NPO法人 Since は、不登校の子どもたちに多様な学びの場や自分の居場所を提供する活動されています。今回は夜の居場所ナイトステイの時間に訪問し、Sinceの日常を感じながら代表理事の麻生 知宏さんにインタビューをさせていただきました。(以下、敬称略) ※出典：「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」(文部科学省、滋賀県)

聞き手：白井、倉橋 (以下、まちスポと表記)



Sinceのメンバー
左から門脇さん、生鷹さん、麻生さん、岩木さん

活動名

特定非営利活動法人 Since

Sinceの日常

まちスポ：今日は美味しいご飯をいただき、ありがとうございました。賑やかな雰囲気ですね。ナイトステイはいつもこんな感じで過ごされているのですか？

麻生：そうですね。昼間にフリースクールを利用している子どもたちが夜までいることもありますし、近所の子たちもいます。基本的にその日の過ごし方はみんなで決めます。今進行をしている男の子は小学3年生です。彼は先日、大学生が参加する集まりでも場を回していました。

今日の夜ご飯は元利用者の保護者や近所の方に作ってもらいました。子どもたちが献立を考えて作る日もあります。

自分だけじゃできないことをしよう

まちスポ：活動中にお伺いできたので Sinceの雰囲気がとてもよく伝わってきました。改めて、Sinceを設立したきっかけを教えてください。

麻生：自身が不登校だった経験もあり、子どもたちには様々な体験を通して自信を持って社会へ飛び出してほしいという思いがありました。なので、特にフリースクールでは関係性をつくることを大切にしています。

そんな設立当初の思いに共感してくれたメンバーの生鷹と門脇がいたから Sinceをつくることができました。初めから、自分だけじゃできないことをしようと思っていました。仲間がいたので動き出すタイミングに迷いはありませんでした。

まちスポ：事業内容とメンバーの役割分担はどのようにされていますか？

麻生：今はメンバーに岩木も加わり、私は講演会やプレゼン、文章作成、生鷹は企画、高校生の場づくり、門脇は事務、経理、広報、岩木はIT関連、仕組みづくりを担っています。他に、大学生のアルバイトスタッフが学習支援や高校生の居場所カフェに関わっていたり、地域のおじいちゃんおばあちゃん、保護者の方もボランティアで来てもらっています。NPOって借り物競争だと思っているので、自分たちにできないことはできる方をお願いして、Sinceは楽しいことをシェアする場にしたいと思っています。



まちスポ：いろんな方がいろんなかたちで関わられているのですね。活動に参加される前に麻生さんから伝えられていることなどはありますか？

麻生：そうですね。ここは、こんなことを伝えていきます、と言えるといいのですが、実はあまり決まったことはなくて。でも、今までボランティアの受け入れて失敗したなと思ったこともないんです。

KEYWORD!

「フリースクール」とは？

フリースクールとは、学校に通えない子どもたちに学びと居場所を提供する民間施設として文部科学省が位置づける教育の場です。

主に不登校やさまざまな理由で学校に通えない児童生徒を対象に、個々の状況に応じた学習活動、教育相談、体験活動などを提供します。

一応研修動画などがあるので見てもらうようには伝えていますが、結局はコミュニケーションが一番かなと思っています。本人のしたいことと Sinceの思いが重なっているところをすり合わせ、じゃあこんなことをお願いしようとか話す時間を持っています。ただそれは大分先の話です。その前に、ボランティア自身居心地がいいなど思ったら長くいるし、去って行かれる方もいます。うちは誰でもまず来てもらうので、社会福祉協議会などからの紹介もよくあります。

失敗しても大丈夫

まちスポ：子どもたちとの関わりで大切にされていることはありますか？

麻生：子どもたちが失敗した時にどう声かけできるのか、「失敗をどう価値づけできるか」を大事にしています。僕らも失敗するし、どんどん失敗しやすい環境にしているので揉めることもよくあります(笑)。でも失敗した時にフォローしあったり、「ナイスフォロー!」と声かけしあえる関わり

は大事にしています。その時に失敗の解像度を上げるのはスタッフや長くいる子どもたちなのですが、そういう失敗に対する態度を養っていただけらと思っています。

まちスポ: 失敗に対する関わりって、子どもたちにとってとても大きなことだと思います。大切な視点ですね。

麻生: 不登校もすでに壁にぶち当たっている状態なので、不登校が失敗体験で終わるのではなく、5年後10年後に、「不登校だったけど、これができてよかった!」という実感を持って価値づけできるようになればと思っています。これが僕は生きる力だと思っています。



あとは、「がんばってる自分」も「がんばれない自分」も肯定することを大事にしています。フリースクールって、がんばるスイッチが入ってる子がいる一方で、Sinceに来たばかりの子はまだスイッチが入っていない時があります。そういう子にがんばらないといけない空気感を周りが押し付けるのも違うし、すでにスイッチが入っている子どもたちには、そういう、がんばれなくてもいいというまなざしを自分にも周りに対しても持ってほしいし、彼らだからこそ持てるんじゃないかと思っています。



子どもたちの可能性に寄り添う

まちスポ: Sinceに通う子どもたちについて、印象に残っているエピソードはありますか?

麻生: 2024年フリースクールの子どもたちと

フィリピンへ語学研修に行く機会がありました。そこで孤児院を訪問し、彼らは親のために働くストリートチルドレンや格差の現実を目の当たりにし、衝撃を受けました。自分の今ある生活が当たり前じゃないのだと。

そして自分にできることはないかと考え、スポーツ用品をフィリピンの子どもに届けるためのクラウドファンディングを行い、自分たちの力で達成したんです。

本当に子どもたちの可能性はすごいなと思いました。

まちスポ: 見てしまったから、知ってしまったからほっとけないという気持ちで彼らを動かしたのですね。麻生さんたち大人の応援もあったから全力で取り組めたのだと思います。

麻生: Sinceは家庭でも学校でもない、第三の居場所だからこそできることがあると思っています。フリースクールの子どもたちはいい意味で、他者との関係性の中で揉まれているので自分の立ち位置を見えています。なので、自分の“ものさし”もたくさん持っています。それは人生の豊かさだと思うし、優しさにもなります。



今後の展開

まちスポ: 最後になりますが、今後やっていきたいことはありますか?

麻生: Sinceのある近江八幡では横に展開していきたいという思いがあります。

これまで子ども中心でしたが、実は大人の孤立化も深刻な問題だと思っています。自治会加入率の低下など、孤独孤立を抱える大人は多いのではないかと思います。

なので今後やっていきたいことは、もっと大人も参加しやすい居場所づくりです。大人が楽しく

していると、子どもたちも大人になりたいくなるんじゃないかなと。



団体としては市民運動のステージにも入ってきたいです。教育を取り戻す、と僕は言っているのですが、いつの間にか教育は学校のものになっていて、もっと僕たち一人ひとりが子育てや教育のことを考えていいと思っています。

自分たちのまちや教育は自分たちでつくっていく、それを僕たち4人ではなく、ボランティアや色々な人と一緒に再確認してやっていきたいです。そして、自分たちの楽しい場所ってどうやってつくるんだろうということを考えたいと思っています。

まちスポ: これからの展開も楽しみにしています。ありがとうございました。

2026年6月5日にお話を伺いました。
※写真提供: NPO法人 Since



Since 玄関に置かれていた看板

特定非営利活動法人 Since

住所 滋賀県近江八幡市安土町常楽寺74
情報発信 <https://since.or.jp/>
SNS



■ 誌面に関するお問い合わせ

特定非営利活動法人まちづくりスポット大津
〒520-0021
大津市二本松1番1号ブランチ大津京内
MAIL: info@machispo-otsu.net
<https://machispo-otsu.net>
TEL: 077-511-9814
FAX: 077-548-6758

